# 「#Json」 説明書

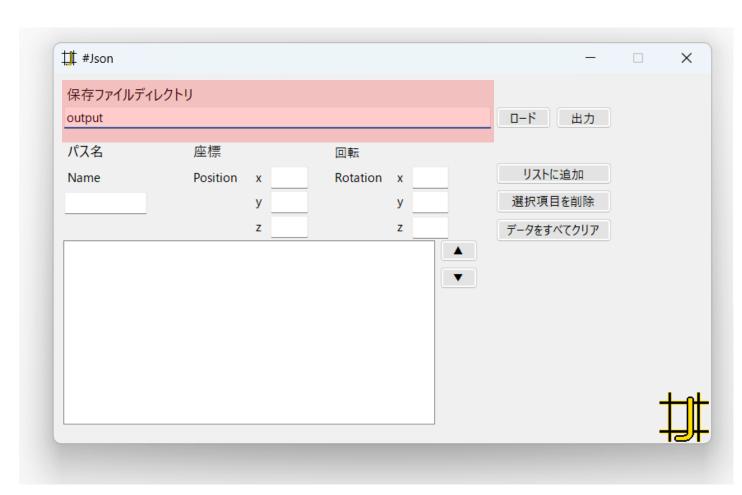
Jsonアニメーションファイル入出力ツール

# 画面構成



- ①保存ファイルディレクトリ
- ②ロードボタン
- ③出力ボタン
- ④パス名
- ⑤座標パラメータ
- ⑥回転パラメータ
- ⑦リストに追加ボタン
- ⑧選択項目を削除ボタン
- ⑨データをすべてクリアボタン
- ⑩出力データリスト・順番移動ボタン

# ①保存ファイルディレクトリ

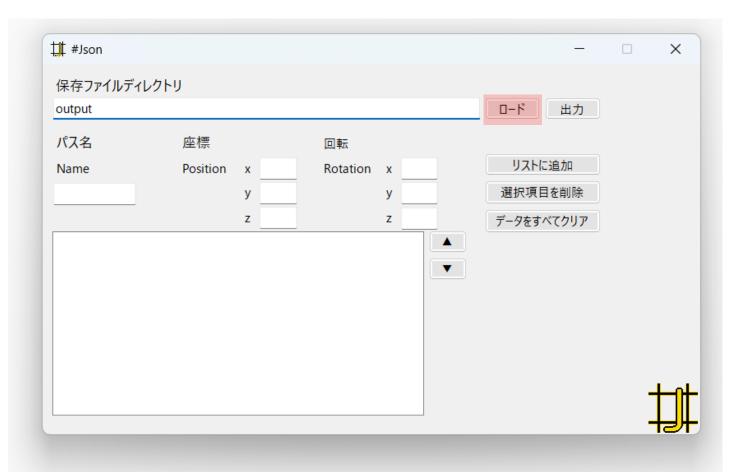


デフォルトではoutputディレクトリが設定されている。



出力先を変えたい場合は好きなパスに変更 する。

### ②ロードボタン



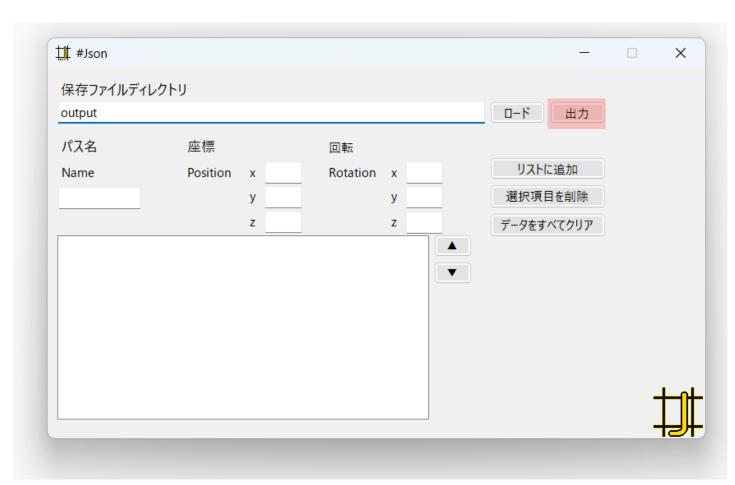
クリックするとエクスプローラーが開かれる。

拡張子「.json」のファイルを選択して開くと、 データリストに追加される。

#### 【注意事項】

- 1. 読み込むたびに上書きされるため、消したくないデータは書き出しておく。
- 2.「#Json」で書き出されたデータのみに対応しているため、他のデータは読み込めない。

### ③出力ボタン



クリックするとエクスプローラーが開かれる。

ファイル名を入力して保存する。 右図:書き出し例)

※データリストの行がすべて 以下のフォーマットで書き出される。 数値はdouble型。

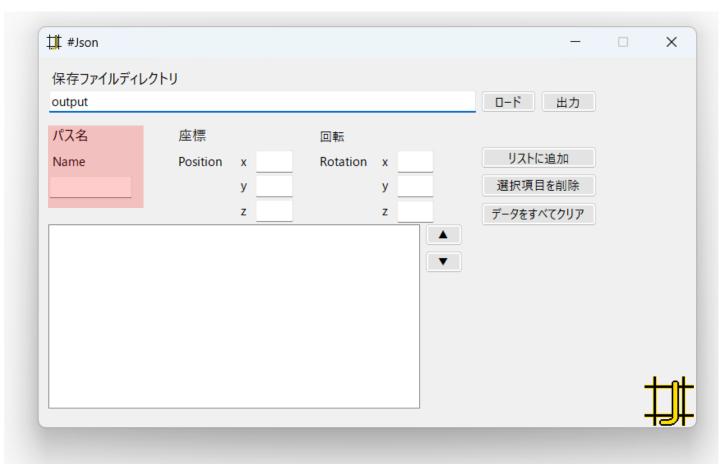
Path:パス名, Position:座標,

Rotation: 回転

```
{
    "Path": "walk1",
    "Position": {
        "X": 0.0,
        "Y": 0.0,
        "Z": 10.0
},
    "Rotation": {
        "X": 0.0,
        "Y": 0.0,
        "Z": 0.0
}
},

"Path": "walk2",
"Position": {
        "X": 0.0,
        "Y": 0.0,
        "Z": 50.0
},
"Rotation": {
        "X": 0.0,
        "Y": 0.0,
        "Z": 0.0
},
"Rotation": {
        "X": 0.0,
        "Y": 0.0,
        "Z": 0.0
}
```

# 4)パス名



主に行動名などを入力する。

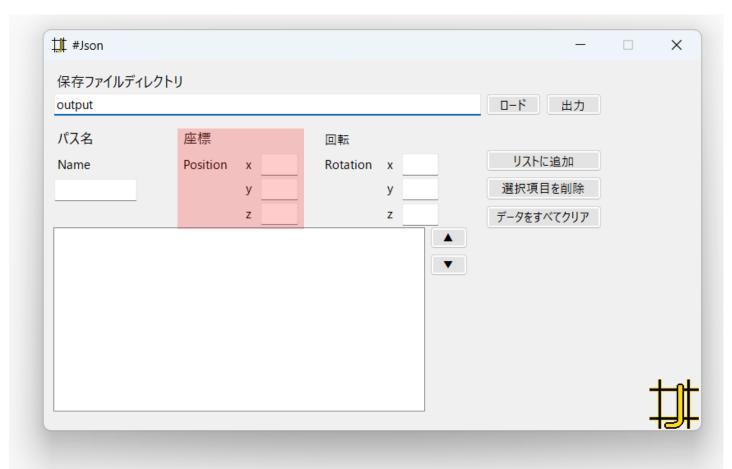
#### 例)

walk1 … 歩行パス1 walk2 … 歩行パス2

#### 【注意事項】

1. 日本語名非推奨

# ⑤座標パラメータ

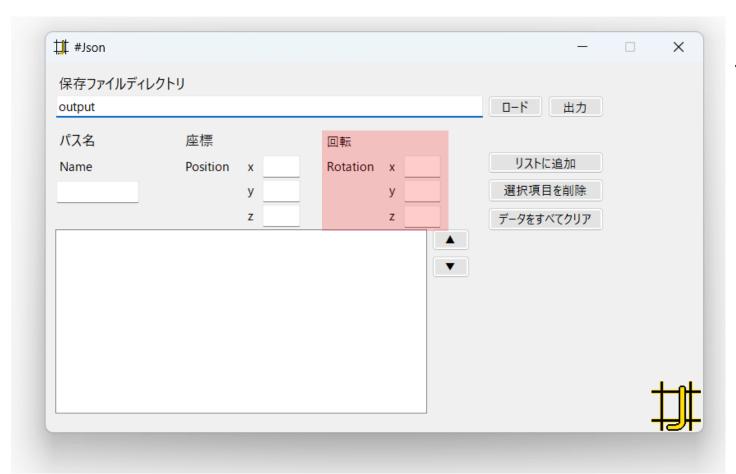


そのパスに対応する座標を入力する。 何も入力されなかった場合、0自動で 入力される。

#### 【注意事項】

- 1. double型で書き出される。
- 2. 文字列を入力すると、0が入力される。

# ⑥回転パラメータ

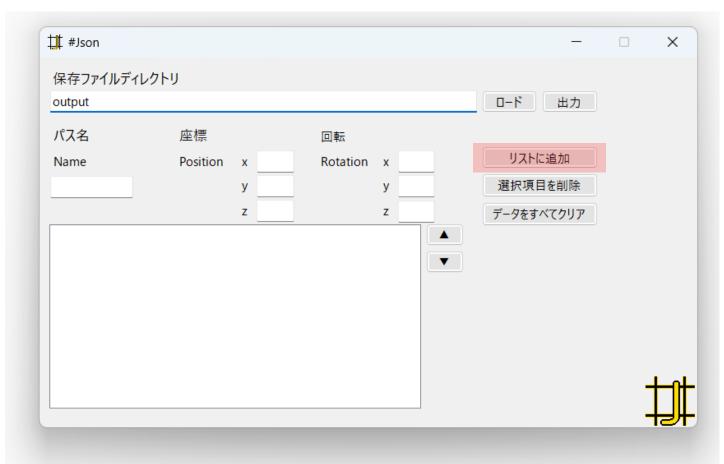


そのパスに対応する回転を入力する。 何も入力されなかった場合、0自動で 入力される。

#### 【注意事項】

- 1. double型で書き出される。
- 2. 文字列を入力すると、0が入力される。

# ⑦リストに追加ボタン



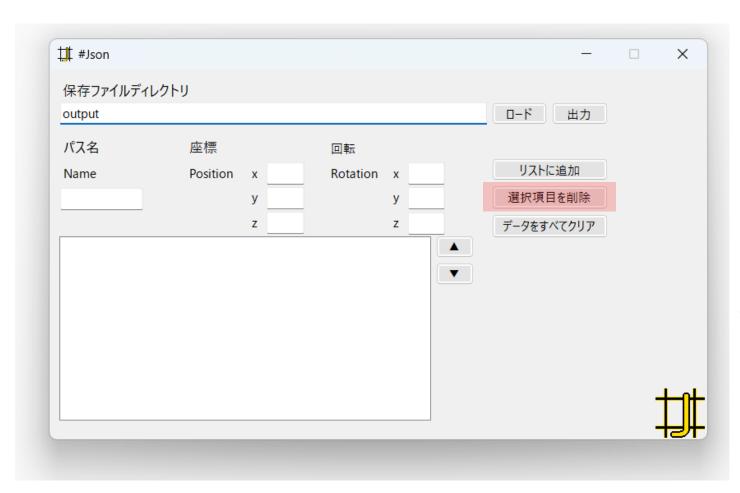
入力されたデータを下のデータリストに追加する。

入力値がない場合は、以下の通りになる。

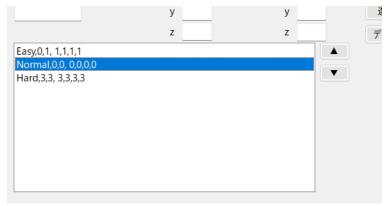
Name: noData

Position: 0.0,0.0,0.0 Rotation: 0.0,0.0,0.0

# 8選択項目を削除ボタン

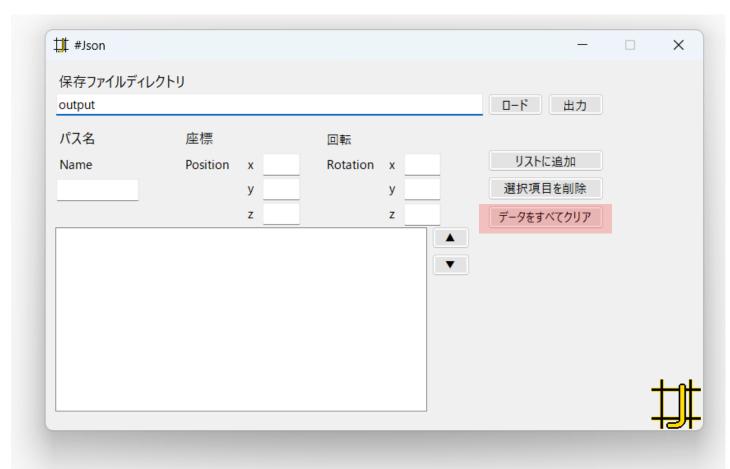


データリストの選択している項目を削除する。



上記の場合だと、パス名「Normal」の一行が 削除される。

# 9データをすべてクリアボタン



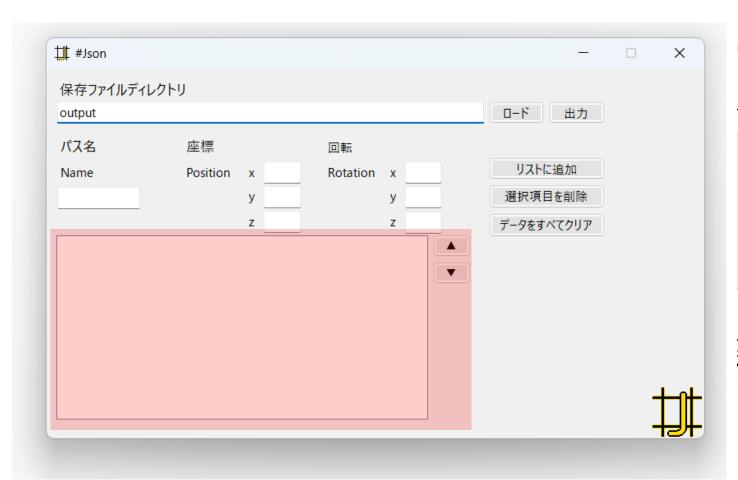
データリスト、入力済みパラメータをすべて 削除する。

起動時の初期状態に戻る。

#### 【注意事項】

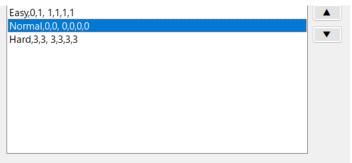
保存していないデータがあれば、保存しておく必要がある。

### ⑩出力データリスト・順番移動ボタン



出力時に書き出されるデータリスト。

上下ボタンで選択項目を対応する並び替える。



上記の状態で▲ボタンを押すと「Easy」の上に 移動し、▼ボタンを押すと「Hard」の下に移動 する。

# データ取扱例 (Json for Modern C++の場合)

```
bool JsonHelper::Load(const wchar t* path)
       // Jsonファイルの読み込み
std::ifstream _ifs(path, std::ios::in);
       if (!_ifs) return EXIT_FAILURE;
       // Jsonデータの取り出し
       _ifs >> m_json;
       // Jsonファイルを閉じる
       ifs.close();
       // パスを保存して正常終了
       m path = path;
       return EXIT SUCCESS;
bool JsonHelper::Write(std::string str)
       // Jsonファイルの書き込み
       std::ofstream _ofs(m_path, std::ios::out);
       if (!_ofs) return EXIT_FAILURE;
       // Jsonデータの書き出し
       _ofs << str;
       // Jsonファイルを閉じる
       ofs.close();
       return EXIT SUCCESS;
```

```
JsonHelper json;
json.Load(L" ファイル名");
Json data = json.GetData();
cout << data[0];

実行結果
Path:パス名, Position:座標, Rotation:回転
```